ふるさと稲作ほっとLINE　No.3

令和４年４月１５日

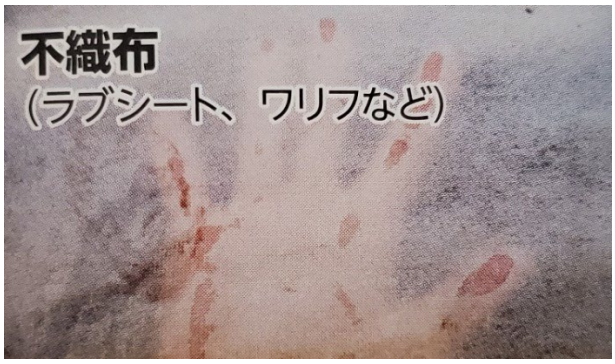
目指せ健苗！育苗管理編～出芽～

【ポイント①　無加温出芽】ハウス内の温度管理が重要！
被覆資材の選択とハウス内温度管理が出芽させるまでのカギ。近年春先の気温が読めないため天気予報で気温を確認しどちらの場合にも対応できるようにしよう！※秋田農業試験場の情報では４月中の気温は高めの予報

ハウス内の育苗管理では外気温によってハウス内温度が急激に上昇する事があります。ムレ苗やヤケ苗が発生することがあるので天気予報を見ながら臨機応変に対応できるようにしましょう。
★オススメ★　低温時はラブシート（白くて軽い）の上にミラシート（又は健苗シート）の２枚掛け。高温時は太陽シート一枚掛けが活躍します！

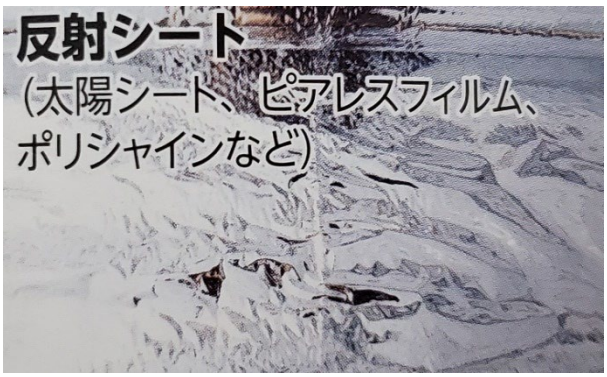
【ポイント②　無加温出芽】被覆資材をはがす時期の見極めが重要！
基本的に出芽長８～10 ㎜程度で被覆資材をはがす。被覆期間が長すぎると軟弱徒長苗になってしまいます。
（※注意　見かけの出芽長が８㎜でも覆土の厚さを考慮して！）

【ポイント③　加温出芽】しっかり出芽を揃えよう！
育苗器を使う場合、出芽は 30℃～32℃で出芽長 1cm を目標に。余熱を考え覆土上３㎜位の出芽で電源 off。芽の状態を見て 48 時間程度を基本に実施。
育苗器内の上下の積み上げで出芽長が変わります（上が長くなりやすい）。
下の育苗箱の出芽長も揃えるように、確認しながら加温しましょう。
また、育苗器から出したばかりの苗は光が当たっていないため白いです。いきなり強い光に当てるとヤケ苗になる恐れがあるのでラブシート等で遮光しながら緑化させましょう。



白と黒の２種類ありポリエチレン等の繊維で作られている。遮光性、保温性はそれほど高くないが強い光を避けたり、軽く保温したいときに使用する。

高圧のポリエチレンを使用しており保温性が高いシート。遮光率50％のため地温が上がりやすくまた冷めにくい。近年、春先の夜温低下が目立つため、保温力の高い健苗シートは最適。



キラキラと光るアルミ蒸着シート。遮光率が 90％と高いため地温の上昇を防ぐ効果がある。

↓育苗器から出したばかりの出芽長 1cm 程度の苗。